



一力 雅彦

一般社団法人東北経済連合会 副会長
交通運輸委員会 委員長

常磐道全通 復興加速へ高まる期待

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城、福島両県の沿岸部が高速道路で結ばれ、復興の加速化に期待が高まっている。

常磐自動車道は、福島県の「浪江－南相馬」、「相馬－山元(宮城県)」の2区間が昨年12月に開通。仙台圏と福島県相双地方が直結した。両区間は震災と原発事故で工事が一時中断されたが、資材や人員の不足を乗り越えて開通にこぎ着けた。

開通に合わせて、「南相馬－仙台」間の直行高速バスも2便から4便に増便された。東日本高速道路が開通後一週間で実施した交通量調査によると、両県をまたぐ「新地－山元」間は1日8,200台に達した。2012年から利用されている「南相馬－相馬」間も29%増加した。

常磐道と並行する国道6号は相双地方で渋滞が常態化していたが、新地町内では3割近く走行台数が減少。常磐道開通でトラックなどの利用ルートが分散化し、渋滞の緩和にもつながっている。今後、用地造成用の土や碎石の搬入増も見込まれ、復興に弾みがつきそうだ。

さらに常磐道はまもなく3月1日に、残る「常磐富岡－浪江」間が開通し、「三郷(埼玉県)－亘理(宮城県)」間の全長約300kmが全線開通する。東北南部の太平洋側と首都圏を結ぶ大動脈が完成することになる。企業誘致や物流、観光客の往来が一層、活発化すると期待される。工事では、放射線被ばく線量の管理徹底など大変な苦労があったという。関係者のご努力に心から敬意を表したい。

常磐道の全通で、東北自動車道と合わせ国土の骨格を形成する二つの縦軸が構築される。東北経済連合会も永年にわたって「東京一極集中の是正」のために仙台延伸、全線開通を働きかけてきた。悲願達成である。

首都圏と仙台圏を結ぶ常磐道と東北道の距離はほぼ等しい。常磐道は東北道に比べ降雪が少なく、冬期間の安定的な交通が確保され、東北道の代替ルートとしての役割も果たす。首都圏で大災害などが発生した場合には、二本の高速道で直結する仙台は支援拠点としての重要性が一段と高まるだろう。お盆や暮れの首都圏からの帰省ラッシュは、高速道の利用が分散化されて確実に緩和されると思う。

一方で、原発事故の影響で福島県沿岸部の多くの人たちは離郷を余儀なくされているのが現実だ。一部で放射線量が高い帰還困難区域を走る常磐道は、線量の数値を随時、利用者に示す宿命を背負う。開通によって除染が進み、地域の再生が加速することを切に願っている。

(株式会社河北新報社 代表取締役社長・いちりき まさひこ)